

【アゼルバイジャン経済トピック 77 号】

在アゼルバイジャン日本大使館

2022 年 2 月 14 日

SOCAR 幹部の異動

10日、アリエフ大統領は、国有石油公社SOCARのロブナグ・アブドラエフ総裁の任を解き経済副大臣に任命し、ロブシャン・ナジャフ経済省第一副大臣の任を解きSOCAR第一副総裁に任命しました。SOCAR総裁は空席となり、ナジャフ第一副総裁が総裁代行を務めます。経済省第一副大臣はエルヌル・アリエフ副大臣が昇格します。

アブドラエフ前総裁は2005年から同ポストにあった古参幹部、一方ナジャフ新総裁代行は40歳の若手テクノクラート。ここでも世代交代の流れが見られます。

当国最大の国有企業で石油ガス分野の中核を担うSOCARのガバナンス改善及び経営立て直しは、国有企業改革の中でも最重要課題とされ、SOCAR監理委員会議長をジャバロフ経済大臣(大統領の最側近)が務めるなど、政府直轄による会社改革のただ中にあります。同大臣を支えてきたナジャフ第一副大臣(SOCAR監理委員会メンバーでもあります)が総裁代行に就任する今回の人事は、SOCAR改革及びエネルギー・脱炭素戦略の推進を目指す政府の強い意思が示されたものと評価できます。

ナジャフ新総裁代行は JICA 研修参加経験もある親日家で、これまでも経済分野の諸案件で日本政府・企業との連携に尽力いただきました。同氏は政府の「水素タスクフォース」(メンバー:経済省、エネルギー省、SOCAR)の共同代表を務めており、今後、水素分野の二国間協力を係る取組の加速化が期待されます。

(以上)